

2021年7月5日

各位

アドバンテッジパートナーズ

共同代表パートナー

笹沼 泰助、リチャード フォルソム

SDGsの達成を促進する、新しい投資戦略の立ち上げ

アドバンテッジパートナーズグループ（以下「AP」）は、新たにアジア広域での再生エネルギー・サステナビリティ関連分野への投資戦略（以下「**再生エネルギー・サステナビリティ投資戦略**」）を立ち上げ、サステナビリティ、再生エネルギー、温暖化ガス排出削減並びにその他関連領域に投資し、民間セクターにおける Sustainable Development Goals（SDGs）の達成を促進して参ります。また、本戦略の責任者として、2021年7月1日付で鈴木圭一がパートナーとして新たに参画したことをお知らせいたします。

近年、SDGsへの国際的な関心の高まりや、官民挙げてのカーボンニュートラルへの取り組みの拡大を背景に、日本を含むアジアにおける再生エネルギー・サステナビリティ関連の投資市場は急速に拡大しています。プライベートエクイティ投資としても、クリーンエネルギーやEV関連を中心に、2016年からの3年間で3兆円*を超える取引がアジア市場で行われています。また、用途市場については、アジア最大の市場は2022年時点で日本である一方（35.2%*）、中国とインドが高い成長性（CAGR 2011-2022 +7%超*）を有しています。

APは、再生エネルギー・サステナビリティ関連分野の投資機会に対し、過去から継続して参入を検討して参りましたが、かかる市場の変曲点を機に、今般**再生エネルギー・サステナビリティ投資戦略**を立ち上げました。本戦略を通じてAPは、蓄積したアジア地域におけるプライベートエクイティ投資のバリューアップノウハウを基に、再生エネルギー・サステナビリティ関連企業の経営改善を通じた高いリターンの実現と、民間セクターにおけるSDGs達成の、トレード「オン」を目指します。日本を含むAPのアジア各拠点に配置されるメンバーは、再生エネルギー・サステナビリティ関連分野への投資機会のソーシングに集中し、投資実行後はサステナビリティ向上のための具体的支援とモニタリングを担います。

加えて、**再生エネルギー・サステナビリティ投資戦略**は、APがサービスを提供する各ファンド（以下「AP全ファンド」）の活動もサポートします。本戦略を通じて新たに開拓される投資案件は、他のAP全ファンドにとっても新たな投資機会や共同投資機会をもたらすことが期待されます。

また、このチームのESG・SDGsに関する高い専門知識はAP全ファンドで共有され、投資先全社におけるサステナビリティへの取り組みの質の向上に活用されます。

これらの活動の責任者として、2021年7月1日付で鈴木圭一がパートナーとしてAPに新たに参画致しました。日本市場においては、鈴木を中心に投資活動と全ファンド投資先へのESG・SDGsの促進活動を行い、民間セクターのSDGsの達成を加速して参ります。

以上

【鈴木圭一 略歴】

鈴木は、世界中の再生エネルギーやその他の発電資産の管理と投資に豊富な経験を有します。AP参画前は、三菱商事株式会社に於いて、日本および欧州・中東地域に於いて、再生エネルギー、プライベートエクイティ、インフラストラクチャーなどのオルタナティブ投資に29年間従事していました。直近は、三菱商事株式会社の完全子会社でありロンドンに本社を置く戦略的IPPプラットフォームであるDiamond Generating Europe LimitedのCEOを務め、欧州および中東における再生エネルギーおよびその他の発電資産の開発、建設、資金調達、運用を行っていました。

東京大学工学部都市工学科卒業、マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院にて経営学修士号を取得。一級建築士。

【本件に関する連絡先】

株式会社アドバンテッジパートナーズ 正村・岩本 TEL: 03-5425-8202

*出所: Asia Private Equity Review, Environmental Business International, Inc.

参考資料

APの再生エネルギー・サステナビリティ関連投資に対する考え方

理念先行のSDGs投資からリターンを実現するSDGs投資へ

投資活動の責任を規定する「PRI」が示す“重点領域”が『ESG』であり、その責任を背景に、持続可能な開発を実現するための全人類が目指すべき“目標”が『SDGs』です。これまで、企業のSDGs実現への取り組みは、コスト増加要因となり、収益に悪影響を与えることが多く、純投資としての継続性は疑わしいと一般的には考えられてきました。

APは、自身が蓄積したアジア地域におけるプライベートエクイティ投資のバリューアップノウハウを、SDGs達成への継続的な取り組みと組み合わせる事で、企業活動・投資活動として利益を生み出すものに出来ると考えます。

APならではの市場創造型の投資戦略

APの投資の歴史は、1997年に日本初のバイアウト専用ファンドへサービス提供した事に始まります。その後もアジア圏でのMid-Small Capのバイアウト投資、世界に類を見ない、上場企業の株式を取得し経営陣と一体となって企業価値向上に取り組む投資戦略“プライベートソリューションズ”の立ち上げなど、常に市場を創造する投資戦略を、ベンチャースピリットを持って構築して参りました。本件についても、投資家の皆様が長期継続的に投資できるアセットクラスに、SDGs関連投資が成長していくアクセラレーターの役割を果たして参ります。

日本からアジア広域へのE・S（環境・社会）課題解決の提供

社会問題の解決がビジネスの源泉となる時代、すなわち、社会問題の解決によってもたらされる便益に対して、社会、企業、消費者が支払いをする／支払いが求められる時代になりました。日本は、これらの社会課題解決の、とりわけアジア地域における先進国です。日本の高度成長期の環境問題・社会問題に対して、政官財学が連携して乗り越えてきた運営のノウハウは、ハード面・ソフト面ともに貴重と考えます。

再生エネルギー・サステナビリティ投資戦略を通じて、このノウハウをアジア地域の社会課題解決に生かすことは、投資収益の実現のみならず、具体的な課題解決の提供手段を通じた直接的かつ大きな貢献となります。課題解決先進国としての日本のプレゼンス向上に繋がる事を期待しています。